

# センターでの 調査研究を通して

四国電力(株) 松山支店

営業部 近藤 浩

## 私とECP R

えひめ地域政策研究センター(ECP R)でお世話になった3年間はあつという間に過ぎ、今では時々郷愁にかられることもある。業種や職種が異なるECP Rのメンバーをはじめ、国や県、市町の担当部署、大学や専門学校などの教育機関、さらに愛媛県内外の企業の方々と貴重な接点を持つことができた。今後は、この3年間での出会い、発見、気づきを大切にし、自分の考えや行動に生かしていきたいと思っている。

さて、ECP Rでの3年間では、(1)障害者の雇用促進、(2)若年者の雇用のミスマッチ、(3)愛媛にふさわしい協働推進体制、の3つのテーマについて調査研究を行った。いずれのテーマも、少子高齢化、過疎化が進む愛媛県にとって喫緊の課題であり、アンケート調査や学識経験者、企業、団体、NPO等へのヒアリング等に基づいて、課題の解決に向けた実行可能な提言を織り込んだ。

以下、これら3つのテーマの調査結果について、そのポイントを紹介したい。

### (1) 障害者の雇用促進

障害者を取り巻く雇用環境は、障害者雇用促進法の改正・施行等を背景に徐々に改善されつつあるものの、愛媛県で法定雇用率を満たしていない企業は約半数存在している。このため、県内企業を対象に障害者雇用に関する意識調査を実施するとともに、全国の先進事例について事例調査を行った。

★これから障害者雇用に取り組む企業へのアドバイス

- ① 経営者、従業員意識改革、知的・精神に障害のある人の雇用に取り組む
- ② プラス面とマイナス面を列挙してから、トータルとして経営判断する
- ③ 障害者雇用の先進企業で研修を受ける
- ④ 障害を個性と認め、一人ひとりの能力・適性に合わせて職域を開発する
- ⑤ 地域での緊密な連携、ネットワークを構築する

### (2) 若年者の雇用のミスマッチ

近年、産業構造の変化などに伴い、企業と仕事を探す人の希望がかみ合わない雇用

のミスマッチが顕在化している。このため、企業の求人行動と一般就職者、大学生の就職活動に関する調査から、企業と求職者間のミスマッチについて調査分析を行った。

### ★調査結果のポイント

- ① 現在無職の人の約6割は雇用のミスマッチが原因である
- ② 企業と求職者との間に情報のミスマッチ、接点のミスマッチが顕在化している
- ③ 人材の能力・資質に不足を感じている企業でも新規採用には慎重である
- ④ 求職者の適性・能力が企業の期待水準に届いていない



県内雇用・就職状況調査報告書

⑤ 企業と若者との間で、求職者に求められる資質・能力に認識のズレが生じている

### ③ 協働推進体制の検討

人々の価値観、ライフスタイルの多様化に伴い、福祉、環境、教育、防犯・防災など様々な分野で課題が山積し、さらに地方の過疎化などに伴い、人々のつながりが希薄化するとともに、地域コミュニティ機能が衰退してきている。一方で、行政課題の高度化・多様化が進み、行政単独では十分に対応しきれない課題への対応が重要性を増している。

こうした課題への解決策として、社会の多様な主体が持つ能力や資源を最大限に発揮し、創造的な結合によって新たな価値を共に創ることが全国的に注目されている。

そこで、本県において、様々な主体が対等かつ主体的に参加する円卓会議をモデル的に立ち上げ、愛媛にふさわしい協働の仕組みや体制等について検討を行った。

### ★ 愛媛にふさわしい協働のポイント

- ① 様々な主体の連携による地域課題の解決
- ・特に最近、企業において、社会問題の解決と市場創造の両方を求めることがCSR（社会的責任）の新潮流になりつつある。このため、企業をより良い社会を創っていくパートナーとして地域づくりに積極的に取り込んでいく。
- ② 様々な主体が連携して関わる新たな地域コミュニティの仕組み
- ・円卓会議という手法の普及、地域円卓会議の実施



現地視察 伊予市双海町日喰地区にて意見交換



協働推進体制検討事業報告書



円卓会議の一コマ 後列立っている右端が筆者

### 最後に

これら3つのテーマの調査研究については報告書の完成を持って完結したが、本当の課題解決に向けては今後の取り組みにかかっている。調査報告書を多くの方に活用していただき、やすらぎ笑顔あふれる『えひめづくり』のお役に立てていただければ幸いです。私自身も愛媛県民、松山市民の一人として諸活動に参加し、魅力ある地域づくりに貢献していきたいと考えている。

最後に、この場を借りて、各方面でご協力をいただいた方々に対して心から感謝を申し上げます。